6-29　実践協力校における実践
事例㉙　寒川町立寒川東中学校（３年生・総合的な学習の時間）
「中１ギャップ解消のために、できること」

Ⅲ　取組の様子２（寒川町立寒川東中学校・３年生　総合的な学習の時間）

①　単元計画

１．活動（単元）名
　「中１ギャップ解消のために、できること」
２．単元の目標
　自身の経験や小学６年生へのアンケート結果を基に学校及び地域の課題を見出し、解決に向けた話し合いや解決に向けた取組を実際に行うことをとおして、主体的に社会に参画する素地を養う。

ポイントになる主な学びのプロセス

- **学校や地域の課題に気付く**
- **課題について考える**
- **主体的に社会に参画する**

３．指導計画（５時間扱い）

	ねらい（◇）・おもな学習内容（◆）
1	◇中１ギャップがどのようなものなのかを理解する。 ◆自身が中学校入学前にどのようなことに対して不安があったかを思い出しながら、小学６年生の困り感をイメージし、共有する。
2	◇同じ町内の小学６年生が抱えている不安を軽減するためのアイディアを考える。 ◆小学生から集めたアンケートの結果について共有する。 ◆具体的な取組に対するアイディアを、ブレインストーミングで出し合う。
中央委員会にて情報共有	
3 （本時）	◇目的を達成するためのより良い方法について探る。 ◆前時に出されたアイディアを基に話し合い、行う取組を決定する。
中央委員会にて情報共有	
4	◇準備の活動を通して、取組の細部をつめる。 ◆第５回の活動に向けた役割分担や準備等を行う。
5	◇参加した小学６年生の様子からニーズと準備してきた取組の整合性を見取り、達成感を味わう。 ◆実際に小学６年生たちに、自分たちが計画した取組を実行する。

※中央委員会…各クラスの学級委員が集まり、学校運営について協議する委員会。

ポイント１

「主観」と「客観」を両立させて課題解決を図るための工夫

ポイント１

　中学入学に際した自身の経験と、学習課題の対象となる小学６年生へのアンケート調査結果を比較することで、具体的で説得力のある解決策を見出すポイントです。活動のまとまり毎に、アンケート結果に立ち返らせることで、単元をとおして「主観」と「客観」の意識をもち続けられるよう指導していたことが効果的でした。

４．総合的な学習の時間と他教科・行事との関連性

ポイント2－①

	活動内容　※下線部が関連付けた部分
体育大会	・種目に応じて、後輩の１・２年生に対して、どのように指導をしていくか、指導部（ブロック長など中心の生徒）がリーダーシップを発揮し、学級で協議する。 ・ブロックの運営方針について決定する。 ・活動を振り返り、次の学習や行事について良かった点と課題点についてまとめる。
修学旅行	・班別自主行動におけるコース決めの取組を中心に、自分たちで話し合って決めていく。 ・活動におけるルールなどを、実行委員会で決定していく。 ・活動を振り返り、次の学習や行事について良かった点と課題点についてまとめる。
合唱コンクール	・クラス自由曲を学級内で話し合い、学級の雰囲気や曲調などについて協議し、決定していく。 ・練習方針について、指導部（合唱委員など中心の生徒）を中心に、運営の仕方について決定し、実行していく。 ・どのような合唱を目指すのか、学級において話し合い、目標を決定していく。 ・活動を振り返り、次の学習や行事について良かった点と課題点についてまとめる。
社会 （公民的分野）	・対立がどのような場面で発生し、合意に向けてどのように取り組めば良いのかを学ぶ。 ・効率と公正について学習し、多面的・多角的に考えることの重要性を理解する。
社会 （歴史的分野）	・世界恐慌をテーマに、日本に与えた影響について整理し、整理した課題に対し、どのような解決方法が適切なのか、クラスで協議する。
道徳	・現代においてアメリカで発生した人種差別を基に、差別がおきた要因、また解決に向けて尽力した人物について学び、自分たちがどのように行動していくべきか考え、協議する。

②　本時の様子

○　本時の目標

アンケート結果を基にし、自分と他者の解決案と比較しながら、中１ギャップの解決に向けたより良い取組について考えることができる。

○　本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる学びのプロセス
前時	**【学級、学校、地域等の課題に気付く】** ６年生たちが実際に抱える不安を把握するために、アンケート調査を実施した。 **【小学生の声】** ・中学校生活がイメージできない ・勉強についていけるか・テストが大変そう ・先輩との関係が不安 ・校則の内容と拘束力の実態・部活と宿題を両立できるか	

<table>
<tr>
<td>導入</td>
<td>○前時の振り返りを行い、本時の学習の見通しをもつ。

この前の時間に一人ひとりが出し合ったアイディアを基に、学級委員が４つの案にまとめました。今日は、４つの案を生かしながら、クラスとして取り組む案を決めます。

先生

中１ギャップ解消のために、できることを決めよう。

<table>
<tr><th></th><th>案</th></tr>
<tr><td>A</td><td>例年どおりの中学校の説明会を行う。（口頭での説明が中心）</td></tr>
<tr><td>B</td><td>授業の様子や学校生活、部活動の様子を写真や動画で紹介する。（オンライン開催や画像・動画提供を含む）</td></tr>
<tr><td>C</td><td>会う、話す、教える。（班ごとの会話やプチ勉強会、学校見学、決まりを教える）</td></tr>
<tr><td>D</td><td>遊ぶ。（小学生が楽しめるレクリエーションなどを行う）</td></tr>
</table>
</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>展開
①</td>
<td>○提示された４つの案から２つに絞りながら、各案の優れている点と課題点について各班で話し合う。

まずは各班で話し合い、４つの案から２つの案に絞りましょう。

先生

Ｂ案は、それぞれの様子を見てもらうことで、具体的にイメージできるようになると思う。

Ｄ案は、６年生が好きそうな遊びを一緒にすることで、その場で仲良くなれるから、安心してもらえると思う。



６年生が入学するとき、ぼくたちは卒業するから、直接的な解決にはならないんじゃない？</td>
<td>【課題について考える】

各取組案の効果を想定した上で、それらの効果を見直すプロセスを設けることで、課題の本質に気付くための機会とした。</td>
</tr>
</table>

展開②

○理由とともに、選んだ２案を共有する。



私たちの班では、
視覚的な情報提供と具体的な交流をとおした関係づくりという視点から、Ｂ案とＤ案を選びました。

○共有した各案の良さや懸念される点を基に、クラスとして取り組む案を、各班で再度検討する。

・今出てきた案を生かして、さらに「６年生たちの不安の多くを解消し、中学校生活が楽しみになる」ような取組について、ここでもう一度検討しましょう。
・先程の４つの案から選ぶだけではなく、新しい案を考えることにも挑戦しよう。



先生



イメージできない不安の解消には、視覚的な情報提供や体験が、やはり効果的だと思う。

６年生から挙がった質問や不安ごとに、自分たちがどのようにしてきたか体験談を伝える交流も加えてみては？





アンケート結果と照らし合わせて、６年生のニーズに応えられているか改めて確認しよう。

○各班の考えを共有しながら、クラスとして取り組む案を決定する。

私たちの班では、Ｂ案とＤ案を合わせた新しい案を提案します。





２つの取組を行うことで、中学校生活や先輩との関係づくりにおいてイメージできない不安を解消する機会となりそう。

アンケート結果を基にしているから、きっとこの案の効果は抜群だ。



目指す子どもの姿

アンケート結果を基にした「中１ギャップ」に関する課題に気付き、他者の解決案と比較し、加除修正を加えながら、自身の考えを深めることができる。

ポイント２－②

【主体的に社会に参画する】

自分たちの行う取組が課題の解決に役立つということを前提とし、改めて本活動の対象となる小学６年生という相手意識をもちながら、より効果的な取組を探れるような授業展開とした。

ま と め	○話し合った内容を振り返る。  取組の方向性は決まったけど、教室、ホール、体育館など実施する場所によって取り組む内容の具体は変わってくるね。 このことについてもう一度６年生に聞いてみてから場所を決めるといいと思う。   その際、こちらが準備できる取組を選択肢で示せば、６年生も答えやすくなると思うな。	

ポイント2

主体的に社会に参画する素地を養うための工夫

・「参画」とは、意思決定のプロセスに関わることであり、「参加」とは、決められた内容を行う・関わることです。
・そのため、他教科や行事と関連付け、生徒たちにとっての身近な社会である学校生活を、より自分たちの望む形にするための協議を繰り返したことが効果的でした。
・また、中央委員会への情報提供も行うことで、協議の結果が学校生活に反映される機会を設け、自分たちの声が届いたという有用感や解決に向けた協議の段階から関わりたいという意識も醸成できるような授業展開が有効でした。

※中央委員会…各クラスの学級委員が集まり、学校運営について協議する委員会。

③　研究協議

１．研究協議のテーマ
　「生徒は合意形成に向けて『他者の考えを聞き、自分の考えを再構築』できていたか」
２．成果と課題、参観者の意見

成果

・生徒が過去に経験したテーマであり、社会参画につながりやすいテーマでもあるため、本テーマ設定は適していた。
・小学６年生に意見を求め、児童のニーズを把握した上での、課題解決に向かうプロセスが効果的だった。
・合意形成の過程をとおした生徒の発言内容の変容から、考えの再構築につながっていた生徒が多く見られた。

課題

・考えの再構築の具体を見取る手立てがあると、ねらいに沿った学習・指導改善につながる。
・どの意見に対しても肯定的に受け止める姿は、生徒たちの良さとも言えるが、合意を図る上では、互いの意見を批判的に見取り、より効果的な意見へとつなげる指導が必要。出された案を安易に組み合わせた合意は、適切な合意とは言えない。
・活動の途中や振り返りにおいて、自分の考えに立ち返り、考え直す時間を設定すると効果的であった。

④　事後の取組







事後の取組として、実際に６年生を招いて交流会を実施した。「中学校の１日の流れ」と題した動画を作成し、披露・贈呈したり、レクリエーションや座談会も実施したりした。６年生からは、「楽しかった」「中学校への不安が薄れた」「自分が実際に通う中学校と違うけれど、いいイメージができた」といった声が挙がり、生徒たちは達成感を覚えた。本取組のテーマであった「中１ギャップの解消のために、できること」という実践は、生徒の主体性を生かした計画及び実行力を養い、目標を達成できた。

活動を終えた生徒の振り返り

- 実際にどのようなことができるか、また、６年生がどのように感じてくれるか分からなかったけど、やってみて良かった。
- 中１ギャップという課題の解決に、少しでも６年生の助けになれたのなら嬉しい。
- 「自分たちで考えて決めて、実際にやってみる。」という取組が新鮮で楽しかった。